

第3章 計画の基本的な考え方について

1 目指す姿

すべての市民が生涯にわたって「食」に関心を持ち、
健全な「身体」と豊かな「心」を育み、
食の魅力があふれる元気な「地域」を目指します

「食」は生きていく上での基本であり、私たちが健康で豊かに生活するためには欠かせないものです。

帯広市には、広々とした田園空間の中で展開される大規模農業により生産された新鮮で美味しい農畜産物が豊富にあり、私たちの「食」を支えています。

食育の推進にあたっては、私たちが有している「食」や農業などの資源を活かしながら、「フードバレーとかち」の取組を進め、すべての市民が生涯にわたって「食」に関心を持ち、健全な「身体」と豊かな「心」を育むとともに、「食」の魅力があふれる元気な「地域」を目指します。



第1章

計画の策定について

第2章

これまでの取組の
成果と課題について

第3章

計画の基本的な
考え方について

第4章

施策の展開について

第5章

計画の推進体制と
進捗管理について

資料編



第1章

計画の策定について

第2章

これまでの取組の
成果と課題について

第3章

計画の基本的な
考え方について

第4章

施策の展開について

第5章

計画の推進体制と
進捗管理について

資料編

2 基本方針

これまでの食育の取組の成果や課題を踏まえて、3つの基本方針を設定します。

基本方針1 食生活を見つめ直す

市民全体の朝食欠食が増えており、特に若い世代において、食生活の乱れや栄養バランスの偏りが見受けられます。

また、新型コロナウイルス感染拡大や世界情勢の変動に伴う食に対する意識の変化は食生活を見つめ直すきっかけとなっていることから、市民が健全な食生活を送るための取組を推進します。

基本方針2 食を大切にする

SDG s の観点から食品ロス削減に向けた取組や啓発活動が推進されているため、食品ロス量は減少していますがより一層食を大切にする取組が必要です。

本市の地域特性を活かしながら、持続可能な食料生産から消費までの食の循環、食と環境とのかかわりを正しく理解してもらうための取組を推進します。

基本方針3 食から地域を理解する

これまでの取組により農作業体験をしたことのある人や地元の農畜産物を選ぶ人が増えてきています。

さらなる広がりを目指し、食を通じて地域を理解し、元気な地域にするための取組を推進します。

<SDG s (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)>

食品ロスや貧困、地球環境の悪化に関して国際的な関心が高まる中、2015年の国連サミットでは、食料の損失・廃棄の削減などを目標とする「持続可能な開発のための2030年アジェンダ」が採択されました。2030年までの達成を目指す国際社会共通の持続可能な開発目標(SDG s)として17のゴール(目標)と169のターゲット(達成基準)が示され、各国や地域で積極的な取組が始まっています。



3 施策の体系

目指す姿の実現に向け、3つの基本方針に沿って、「家庭における食育の推進」「学校や保育所等における食育の推進」「地域における食育の推進」といった施策を実施する場面を意識したものとし、それぞれに関わっているものについては、「横断的な食育の推進」として、具体的な施策を展開していきます。

目指す姿

すべての市民が生涯にわたって「食」に関心を持ち、
健全な「身体」と豊かな「心」を育み、
食の魅力があふれる元気な「地域」を目指します

基本方針

食生活を見つめ直す

食を大切にする

食から地域を
理解する

施策の展開

○家庭における食育の推進

- ①望ましい食習慣や知識の習得
- ②環境にやさしい食生活の推進
- ③妊産婦等や乳幼児への食育の推進

○学校、保育所等における食育の推進

- ①食育指導体制の充実
- ②給食を活用した食育や地産地消の推進
- ③農作業や調理等の体験活動の充実
- ④食文化への理解促進
- ⑤保護者への啓発の推進

○地域における食育の推進

- ①多様な体験活動を通じた農業理解の推進
- ②直売所を通じた生産者と消費者の交流の促進
- ③地産地消の促進
- ④若い世代をはじめとした各世代への食育の推進

○横断的な食育の推進

- ①食育に関する啓発の推進
- ②食育に取り組む関係者との連携の推進
- ③新たな日常や食をとりまく環境の変化を意識した食育の推進

4 食育推進にあたっての指標

目指す姿の実現に向けた基本施策の成果や達成度を把握するため、指標となる項目と目標値を設定します。

指標項目		現状値	目標値 (R9)
朝食を欠食する市民の割合	小学6年生	8.0%	0%
	中学3年生	7.7%	
	市民	15.0%	5%以下
野菜を1日3回食べる市民の割合	小学6年生	41.9%	45%以上
	中学3年生	36.9%	
	市民	26.8%	
牛乳・乳製品を週5日以上とる市民の割合	小学6年生	92.1%	95%以上
	中学3年生	84.6%	
	市民	52.4%	55%以上
食事を家族などと一緒に食べる児童・生徒の割合	小学6年生	95.2%	100%
	中学3年生	88.8%	
食育に関心を持っている市民の割合		80.4%	90%以上
畑作4品を知っている児童・生徒の割合	小学6年生	8.4% ※1	50%以上
	中学3年生	11.6% ※1	
農業（畑作・酪農）体験をしたことのある市民の割合		80.5%	80%以上
地元の農畜産物をよく使う市民の割合		70.3%	70%以上
食品ロス削減のために何らかの行動を行っている市民の割合		77.8%	80%以上
食育推進サポーター活用件数		13件 ※2	25件以上

現状値は食育アンケート調査（令和3年度）より（P.53より掲載）

※1：追加アンケート調査（令和4年度）より（P.77より掲載）

※2：令和3年度農政課調べより